

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

最盛期の紅葉を見に涸沢に行ってきました その1

松本県ヶ丘高校山岳部顧問 松田大

この三連休、性懲りもなく今年も穂高へ行ってきました。一昨年は初日が悪天候のため急遽、二泊三日の日程を一泊二日に変更し、初日横尾天泊、翌早曉から涸沢・奥穂・ロバの耳までをピストンし、その日に松本まで帰るという超強行軍の一泊二日であったが、参加した生徒共々、素晴らしい紅葉と天候に満足した。昨年は女子の参加もあったので、とても横尾から奥穂のピストンは難しいと、涸沢二泊で実施した。イマイチの紅葉と、天場探しに苦労した満杯の涸沢キャンプ場、極めつけは帰路でのパノラマコースの大渋滞で閉口し、混雑期の涸沢はもうこりごりと報告した。(かわらばん第417号)

そんな事情を知ってか知らないでかはさておき、今年も生徒は涸沢の紅葉を……と云ってきた。昨年のリベンジ的な気持ちも多少あり、それならと、今年は多少工夫を加えた。その1、上高地への車両進入許可証をもつ宮澤先生の車で、新村橋先までザック等の荷物を輸送してもらい、横尾までのスピードアップを図った。その2、横尾から先発隊を出し、天場の確保に努めた。の二点であった。昨年よりも涸沢の混雑が多少少なかったことと相まって、今年は困ったことが少なく、快適な合宿でした。

今合宿参加者は、2年男子3名、1年男子6名、女子1名、引率2名の計12名とかなりの大部隊で、テントも三張り目一杯。新島々からのバス及び、新村橋先の車止めまでは、必要最低限の装備でルンルンに移動。ザックのパッキングを終え、横尾までの20分ほどが今合宿の最初のアプローチであった。今年も横尾の人の多さにも感動？した。トイレ待ちの行列の長さにも感心、11時前だというのにテント場はほぼ満杯状態であり、涸沢の混雑も昨年並みを覚悟した。先発に抜擢した2名に天場確保の全権を託し、本隊は流れに任せることとした。登山道に入ると直ぐに長蛇の行列状態となったが、昨年より遙かに動きが良く、本谷橋にはワンピッチで到着できた。

本谷橋から上での渋滞もたいしたことなく、特に最後の河原部分から上は、先行者が次々を道を譲ってくれたこともあり、汗が出るほどのペースであった。案の定涸沢のテ



ント場は一杯であったが、先発の二人が何とかテント三張りを張れる場所を確保してくれていた。少しでも快適にと、石を並べ直すなどしてテントを張り、後はのんびりと過ごした。生徒の一部はすぐ横の岩でボルダリングの真似事をして楽しんでた。夕食の準備前に雨が降り出し、炊事はテントの中であった。夕食後の薄暮期に、一年生が大きな声で校歌と応援歌を披露した所、彼方此方から拍手

が起こった。(明るく日何人かに声を掛けられた)明日の好天を祈念しつつ早めに就寝した。

二日目は昨夜来の雨は上がったものの、曇天であった。昨年渋滞で奥穂山頂に登れなかった教訓を生かし、まず奥穂に登り、時計回りで北穂方面へ縦走し、涸沢に戻るという計画である。5時出発予定であったが、トイレ渋滞のため、30分以上遅れ、殆どヘッテンが必要ないくらいに明るくなっていた。歩き出してしばらくし、ガスの切れた上部を見て驚いた。2800m 付近から上が雪で真っ白なのである。どうやら夕べの雨は上部では雪だった様子である。ザイデングラード取り付けより大分下まで奥穂小屋の従業員が降りてきており、我々登山者に、「小屋から上では新雪が5cm以上積もっているので十分注意するように」伝えてくれていた。

ザイデン取り付けでの休憩時、涸沢に向かっている岡山の田中さんとアマ無線での交信をすることができた。奥穂山頂は諦めたのか、ザイデンは早朝の割には下山者多く、



スライドが少し大変であったが、ほぼ順調に奥穂小屋まで到達することができた。小屋前広場の積雪は可成りであり、小さな雪だるまもできていた。手前からの登山道ルートも真っ白で、小屋から山頂に向かう登山者は殆ど見受けられなかったが、天候も回復基調であり、気温も上がり、戻る頃には雪も溶けるだろうと頂上に向かった。小屋から上はそれなりに風もあり、雪の付いた岩に必死にしがみついた生徒達は手袋を濡らして泣き言を云っていた。

頂上も先行者が数人程度で空いていた。岩陰に風を避けてかなりの時間滞在したが、時々ガスが晴れて時には陽も差した。槍の穂先こそ姿を見せなかったが、笠ヶ岳を始め、前穂やジャンダルム、上高地などの景色を楽しむことができた。中には西穂方面や前穂方面に向かう登山者も見受けられた。奥穂山頂からも、涸沢からパノラマ経由で上高地へ下山する

途中の田中さんと無線交信することができた。

頂上に長居をしたのは、雪が溶けるまでの時間稼ぎで、徐々に頂上へ到着する人も増えてきたので下山することにした。男子生徒はさておき、一年生の女子生徒の腰に細引きを巻き付け、ペット状態として万一のスリップに備えて下山を開始した。まともに落ちられたら腰縄ぐらいでは止めるのは難しいが、スリップ事故などはかなりメンタルな面もあり、落ちて止めて貰えるという安心感が事故防止に繋がると考えた。予想通り雪は殆ど溶け、下りは余り苦労しなかったが、その分登る人が増えハシゴ場は渋滞した。小屋前でもゆっくりした。(以下続く)